

No2460 大普賢岳

日時： 4月25日(土)～26日(日)
参加： 岡本(L)、右田、佐々木(記)

4月25日(土)夜7時50分、右田さんに東大阪に迎えに来てもらって奈良の岡本さん宅に向かって出発。岡本車に乗り換えて、和佐又へ・・・夜10時半キャンプ場着、大きな和佐又ヒュッテ駐車場に5～6台の車とレジャーテント2張、ここはオートキャンプ場でもあるようだ。さっそくテント設営、一杯飲んで就寝。

翌日5時半起床、テントをそのままにして(6:15)出発。道沿いに広く気持ち良さそうなオートキャンプ場が広がっている。

しっかりした道標に沿って「シタン窟」(指弾)、「朝日窟」に続いて見上げる大岩の下に「笙の窟」(7:04)、「鷲窟」の祠を見て小沢を横切るように登る。

日本岳のコル(1505m)(7:15)から、いくつかの鉄梯子を登り小普賢岳への肩へ。



(和佐又ヒュッテ前のテント場)



(鷲ノ窟上部の岩)



(大普賢岳山頂)

小普賢岳をトラバースするように進むが、キツイ登りを梯子に取り付く箇所がある。

残雪の残る谷に向かって滑り込むように枯草が落ち込む道、奥駈道から程なく大普賢岳着(1779.9m)(8:10)。山上ヶ岳・稲村ヶ岳・弥山をバックにして七曜岳・国見岳など大峯の主峰が、低木の間からは360度の展望を楽しむ事ができる。

急な道を下ると笹原となり、水太観のポイント

に出る。尾根沿い道はシャクナゲの群生地だが、今年はあまり花芽が付いていないようだ(表と裏、1年毎に開花量が変わるみたい)。

弥勒岳(8:40)を過ぎ、サツマコロビの急降下を慎重に降りると稚児泊(9:15)、国見岳(1655m、今回はパス)分岐および七ツ池を過ぎると七曜岳(1584m)(9:

43)着。

途中、大普賢岳と小普賢岳のビューポイントがいくつかあり、山の険しさを感じる。

一服し、頂きから間もなく分岐を左へ降りる(直進は行者還岳・弥山方面)。ここから無双洞までの下りは、木の根と岩と粘土の滑りやすい道、気を抜く事は出来ない。



(七曜岳直下の鎖場)



(七曜岳山頂)



(ビューポイントからの大普賢岳)

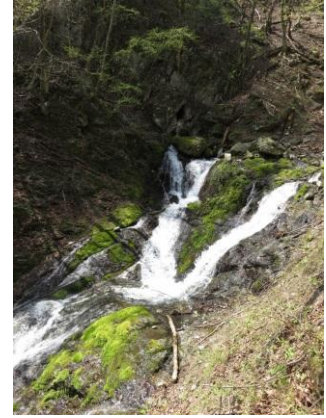
沢音が聞こえてくるとホッとすが、なかなか水に達する事が出来ない。大きな花芽の付いたシャクヤク（初夏の開花）が、そこここ目に付くようで、右田さんが詳しい。無双洞（10：45）着。ドデカイ沢源流といった様な穴から、不思議とドウドウと流れ出る水といった感じの場所です。すぐ下に続く水簾ノ滝が大きな滑り台のように長く流れ落ちる。

約200mを鎖と鉄アングルの道を沢下に下り、また登り返して底無し井戸の標識に出会う。さらにひと登りして山腹に出る。

綺麗なヒメシャラとブナの道を長く歩くと、和佐又のコルからヒュッテの駐車場となる（12：35）。オートキャンプ場には、のんびりと楽しむ人達でいっぱいでした。

8時間ほどのコースを早めに歩きましたが、苔と花・大きな滝と切り立った岸壁に綺麗な笹原と、さまざまな要素が詰まった期待を裏切らない山を楽しむ事ができました。

テント撤収、無事帰阪。岡本リーダーお疲れさんでした、ありがとうございました。



（無双洞）